

使徒言行録 11 章 1－18 節 「非難から賛美へ」

今日は 7 月の聖書箇所のおさらいと、さらにそのペトロを非難していた者たちも、みな神さまを賛美したという箇所です。初めは興奮して非難の言葉を荒げていた人々が、いったいどうやってそれが沈黙に変わり、最後には神を賛美するまでに変えられていったのでしょうか。今日のポイントは三つ。第一に、ペトロが非難された理由。第二は、非難に対するペトロの反応・対応の仕方。第三はその結果です。

まずユダヤにいた兄弟たちの非難について見ていきましょう。異邦人たちも神のみことばを受け入れたという知らせは、あっという間に使徒たちやユダヤにいた兄弟たち、すなわちエルサレム教会を中心にしたユダヤ人キリスト者の間に広がりました。あまりにも早く多くの人々に宣べ伝えられ実現したということと、異邦人も神のみことばに従ったという事実、かなりの驚きと衝撃を覚えたのでしょうか。ところが、そうした喜びの知らせが広がっていくにつれて、新たな疑問が人々の心にわき上がってきました。それは、どうやって異邦人が神のみことばを受け入れたかということです。次第にペトロへの非難が出てきます。異邦人と一緒に食事をしたことの問題。その一番の問題は、ペトロが律法の規定を破ったのではないかということでした。

では、そうした非難に対して、ペトロはどのように対応したのでしょうか。4 節には「事の次第を順序正しく説明して言った。」と、詳細を 5 節以降で語り始めます。ペトロに示された幻と、ペトロの説教中にコルネリウスたちに聖霊が下られたという出来事です。ペトロの幻は一見律法のことを言っているように思えますが、神に選ばれた民族であるユダヤ人が、異邦人を受け入れなければならないという教えでした。そしてペトロがコルネリウスの家で説教していたとき、聖霊が下られたのです。救いは、救いの言葉を信じる信仰によるのであって、行いによるのではない、と。彼らにも聖霊が降ったのは、彼らがイエス・キリストを救い主として信じたからです。信仰という唯一の条件が満たされたから、聖霊が与えられたと、ペトロはその場にいた人々に今まであったことを伝えました。

非難に対してペトロの説明をした後、どのような結果となったのか。それが 18 節、「人々はこれを聞いて沈黙し、『それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ。』と言って、神をほめたたえた。」とあります。ペトロの説明を聞いたユダヤ人たちの反応は、沈黙と賛美でした。神さまの大いなる御業に圧倒され、また深く納得させられたことによる沈黙。また、神さまの大いなる御業に心を突き動かされ、喜びに満ちあふれた賛美でした。

時として私たちもなかなか理解できなくて困惑し、この人々のように「それはどういうことか」と非難したくなるようなこともあるかもしれません。しかし、主ご自身が語られる言葉、あるいは、人間を通して語られる主の言葉を聞くことによって、そうした疑問のあれこれや、悩みや苦しみのあれこれの一切がしりぞけられ、ただ圧倒されて沈黙させられるのです。そして、その言葉を心から信じ、受け入れ、従っていくならば、そのような不平やつばやきが神への賛美と変えられていくのです。この御言葉を聞く協会として、主なる神の御言葉の前に心を開き、聞くものでありたいと願います。